巻頭言 第56回ポーラログラフィーおよび電気分析化学討論会を 秋田で開催させていただくにあたり

小川 信明

Welcome to the 56th Annual Meeting of the Polarographic Society at Akita

Nobuaki Ogawa

第56回ポーラログラフィーおよび電気分析化学討論会を秋田で開催させていただく事になり大変うれしく思っております。私の記憶では、秋田での開催は初めてのことになり、私といたしましても大変感慨深いものがあります。今回例年と比べまして、少し早めの開催日となっておりますが、これは、秋田では例年、11月の中旬から下旬にかけ、雪が降ることが多く、交通機関がまひしたりして皆様にご迷惑をおかけすることになってしまいましたので、少し日程を早めたところです。そのため、すべての締め切り等が早まり、なにかとご迷惑をおかけしております。このようなことやどちらからも遠いことなどから、皆様にご参加をいただけるかどうか心配いたしました。が、例年よりは少ないものの、特別討論、口頭、ポスターをあわせて62件の発表が行われる事になりました。ご参加ありがとうございます。また、ご発表申し込み等のWebからの転送がうまくいかず、この点もご迷惑をおかけしました。この場をお借りして、陳謝申し上げます。

もちろん、電気化学は物理化学の重要な1分野であり、基礎研究は電気化学の

真髄であることに変わりはありませんが、一方で、電気化学的手法の開発・発展と普及は、学際分野の研究によってなされると考えられることから、本討論会の討論主題を、「電気分析化学における手法の展開と学際的研究への応用」といたしました。本討論会にエントリーいただきました皆様のご発表を分類してみますと、液液界面に関する研究、電極や電気化学手法に関する研究、イオン液体関連の研究、有機物・生体物質の電極反応解析の研究、電気化学理論に関する研究、電気化学的現象の研究、などです。まさに、学際分野そのものやそれを見据えたご研究のご発表がこの討論会を支えていると感じました。今回も、前回に引き続き特別討論を4件もうけましたが、今回の趣旨は、前回とは少し異なり、比較的若手の研究者4名に、日ごろはあまり語れないご自分の研究に対する思いや電気化学にたいする思いを自由に語っていただき、ご参加の他の先生方から、そのことに対するご意見・ご討論をいただければと存じております。

私が初めてポーラロ討論会に出さしていただきましたのは、30年ほど前の修士

の学生の時でした。この当時は、藤永先生、千田先生、玉虫先生、神原先生、藤原先生、池田(重良)先生といった、今でいう大御所がたくさんおられ、それらの先生方の議論に圧倒されていました。後になって感じたことですが、ほかの学会・討論会に比べ、ポーラロ討論会は、討論の内容が深く・厳しいものでした。登壇者が教員でも学生でも、その点は容赦なく厳しい質問がきておりました。この様な厳しさは、学生さんが研究者として認めてもらっていることの証でもあり、学生さんや若手の先生が研究者として成長することにも寄与すると思っております。このような精神は、今も脈々と続いているものと思っており、次の世代にも受け継がれていくものと存じます。この討論会で議論してもらえれば、これ以上厳しい議論はなく、そのような議論を自分の研究にフィードバックすれば、よりよい研究となり、よりよい論文が書けるものと信じています。ですから、若い研究者の皆様は、厳しい質問にも、変に落ち込むことなく、良いアドバイスをもらったと思い、感謝し、それを糧にさらなる研究に励んでほしいものです。

秋田の地は自然に恵まれ、十和田・八幡平国立公園、その中の奥入瀬、田沢湖、男鹿半島、角館などの観光地がたくさんあり、時間が許せば、討論会の折に合わせてぜひ訪れてほしいところです。田沢湖周辺は、最近の韓国の人気テレビドラ

マ“アイリス”のロケ地としても、知られるようになり、日本国内ばかりでなく韓国からの観光客も増えております。秋田は、また、お酒と美人の国でもあります。秋田産のお米のブランドとして、“秋田こまち”の名があるように、小野小町の里として全国に知られております。お酒では、高知県と日本酒の消費を毎年争っております。県内には、50以上の蔵元があり、全国の品評会で、毎年、なにがしかの賞をとっております。本討論会の懇親会でも、日本酒は、十分にご賞味いただけるよう、準備いたしております。食のほうでは、“はたはた”など魚介類がおいしく、そのほか、“いぶりがっこ(漬物)”、“きりたんぼ”、“稲庭うどん”、“とんぶり”など、素朴な味が楽しめます。ぜひ、秋田の食もご堪能ください。

今回の東北の地、秋田での討論会が少しでも日本ポーラログラフ学会の発展に寄与でき、会員の皆様やご参加の皆様にとりまして充実した有意義な討論会になりますよう、またこれからも、本会が学問・研究の基礎を大切に、新たに化学の先端領域を開拓し、これを展開・応用していく学会として益々発展していきます様、心から願っております。

(おがわ のぶあき・秋田大学、
第56回討論会代表世話人)

Nobuaki Ogawa, Professor, Akita
University; Chairperson, Organizing
committee of the 56th annual meeting.